

平成12年 8月

第2号

自治連だより

発行 八千代市自治会連合会
 代表者 山 寄 英 美
 事務局 八千代市大和田新田312-5
 八千代市役所市民参加推進課内
 047(483)1151代

住民自治の発展のために 平成12年度自治会連合会総会開かれる



自治連総会での山寄会長挨拶

平成12年度の自治会連合会総会が5月22日に、市役所2階の第1・第2会議室で開かれました。

出席者97名委任状86名計183名(自治会総数214)で成立、議長に山口勇副会長(東町会)を選出し、平成11年度事業報告・収支決算、平成12年度事業計画・収支予算について質疑討論の後、賛成多数で可決し、平成12年度新役員の承認があり、無事終了しました。

山寄自治連会長挨拶要旨

自治連の目的は、住環境の改善や会員相互の親睦など共通の問題について市・県等に要望をして、その実現を図ることにあります。

このため、昨年度から各地区毎に連絡会議を発足させるとともに、自治連だよりを発行し、各自治会の横の連絡を密にし、併せて自治会活動についての市民の皆さんの理解をすすめるようにしました。

現在の社会は、豊かさが進んだ反面、住民相互の関連が薄くなり、市民生活でのモラルや、

自治会連合会表彰

平成12年度の自治会連合会表彰で、次の方が表彰されました。

- 高津団地5街区自治会長 多田 久 尚氏
- 北の作自治会元会長 花房 武氏
- 勝田台サンコーポ自治会長 海老原 利 子氏
- 道路美化活動 勝田台サンコーポ自治会

総会での質疑討論から

Q自治連だよりの成果は。編集会議はどうしているか。市民の意見を入れないのか。(勝田台西自治会)

A自治連だよりの発行は、地区運営会議への助成金の支出で適正化されると予想。(会長)

Q自治連だよりと、地区運営会議の実施はよかったです。研修会を平日2日ではなく、土・日を含められないか。(米本団地南自治会)

A視察先のこともあるが、日曜日と月曜日、金曜日と土曜日で検討する。(会長)

Q敬老会を社会福祉協議会支会と自治会に移すことについての自治連の見解は。(高津団地自治会)

A今年度は従来どおり市主催。来年度から各支会の主催で実施予定。自治連としては予算を減額しないことを前提として、問題はありますが協力をすると立場。(会長)

Q阿蘇地区は自治会の数が多い。村上地区として独立は可能か。(下町町内会)

A市は、コミュニティ推進計画で分割を決定している。自治連としても検討する。(会長)

Q不法投棄防止看板は市民のモラル向上のために立てている。自転車・バイクなど、放置されたものは個々の自治会又は地区運営会議として清掃センターに連絡されたい。(会長)

Q自治連の繰越金が多い。(八千代台西自治



市政懇談会での大澤市長の市政報告

市と自治連共催で 市政懇談会を開催

八千代市自治会連合会総会に引き続いて、市と自治連共催による市政懇談会が開催されました。

司会を手塚自治連副会長が担当し、大澤一治八千代市長の挨拶と、来賓の服部友則市議会議長の祝辞のあと、熱心な質疑討論があり、最後に山寄自治連会長のまとめの挨拶で閉会しました。

「市政懇談会」における質疑・要望

各自治会からの対市要望は、本年度は45自治会から提出されました。この中から7項目について山寄自治連会長が代表質問をしまし

- ②道路整備(私道を含む)とカーブミラーの設置について
 - ③総合病院の建設について
 - ④焼却炉からのダイオキシンについて
 - ⑤市財政の健全化
 - ⑥東葉高速鉄道の運賃
 - ⑦図書館の整備充実
- 市民生活の安全のための積極的対応を要望。市は個別に善処するとの回答でした。
- 東京女子医科大学病院の誘致について内諾の回答があり、平成16年4月の開院に向けて計画をすすめている、と大澤市長より説明。
- 昨年1号炉から140トンノグラム、基準の80トンノグラムを60トンノグラム上廻っていたが、改修工事で14トンノグラムに減少。3号炉は建て替で、0.1トンノグラムにする予定。との回答がありました。
- の各項目については、より一層の努力により市民の期待に応えたい、との主旨の説明と回答がありました。
- 市政懇談会の反省点**
- 市政懇談会は、市に対する要望をなるべく多くの自治会に共通するものを中心にとりあげました。
- 各自治会個別の問題は文書回答になりましたが、重要事項については質疑の時間を多くする必要があり、この点が来年の課題です。

勝田台サンコーポ自治会

清掃活動で団結

自治会めぐりそのI、は勝田台サンコーポ自治会です。道路の清掃活動が千葉県道路協会会長賞と、八千代市自治会連合会長賞を受賞したこのことを聞き訪問しました。



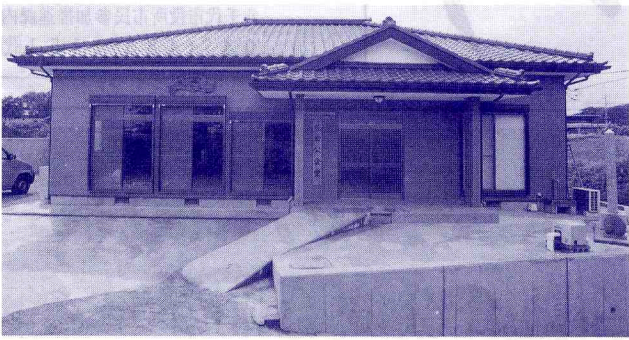
サンコーポ自治会は、京成勝田台駅前の商店街を形作る全6棟のマンション自治会で、会員数3百50世帯の中規模自治会です。昭和51年に発足し、来年は25周年を迎えることになるそうです。現在の会長は海老原利子さんと、税理士という多忙な職業と自治会活動を両立させている女性です。

海老原さんは、「勝田台だけではなく近在の

人びとが朝夕に集散するという駅前特殊な環境の中で、毎月第三日曜日の朝、自治会として地道な活動を18年間続けてきた。県や連合会に認められたこと、会員一同喜んでいますが、来年は25周年を迎えることになるそうです。現在の会長は海老原利子さんと、税理士という多忙な職業と自治会活動を両立させている女性です。海老原さんは、「勝田台だけではなく近在の

花輪区公会堂を再建

昨年の6月に公会堂を焼失した花輪区では会員一丸となり再建に立ち上がり、今年度早々に建築に着手し、6月下旬に工事が完了、7月4日に落成式が行われました。



完成した公会堂

焼失から僅か1年足らずの間で再建を果たした花輪区の皆さんの熱意と努力に

防犯灯保険に加入

前号でお知らせいたしましたのが、本年度より各自治会で所有しております防犯灯による事故の発生に備え自治会連合会にて、市の助成を受け防犯灯保険に一括加入することとし、7月1日より保険に加入いたしました。加入内容は下記のとおりです。

なお、保険には加入をいたしました、事故を発生させない事が第一でありますので、各自治会においては、常に防犯灯の点検・維

●防犯灯保険の内容	
保険加入者	八千代市自治会連合会
被保険者	連合会加入防犯灯所有自治会
保険金額	対人賠償 1名6,000万円迄 1事故2億円限度
	対物賠償 1事故500万円迄
免責額	対人対物とも1事故につき一万円

地区自治会連絡会の動き

大和田地区

昨年度は2回の会合を持ちましたが出席状況は必ずしも十分ではありませんでした。本年度は地区運営会議の助成金を有効に活用し、地区内自治会相互の連絡協力を図り、各自治会の発展強化に資するよう努力して参ります。本年度は役員協議の結果話し合いを中心として次の通り実施する予定ですので、各会長の参加をよろしくお願いいたします。

阿蘇地区

本年度は地区内に多く見られるごみの不法投棄の問題を中心として地区会議を開催する予定で、8月下旬に地区の幹事会を開催し、具体的な開催時期等を決定し通知をいたします。各会長の積極的な参加をお願いいたします。

役員会報告

ボランティア袋の支給

7月12日に本年度第2回の自治連役員会を開きました。議題としては、社会福祉協議会助成金を40%から20%減額の件、自治連視察研修、国勢調査員推薦の件などでしたが、中心はゴミ袋有料化に伴うさまざまな問題についてでした。自治会未加入者や外国人に対しての不徹底さによる指定外袋や、販売店の偏り、ゴミ袋の売り切れなど、問題点の対処を担当課長に要請しました。また以前から要望しているボランティア袋の自治会への無償配付を早急に実施することを確認しました。

睦地区

睦地区区長自治会協議会は会員の親睦と融和並びに地区内の諸問題の連絡調整を図り、地区の発展興隆に寄与することを目的とします。そして、懇親会及び研修会や意見要望の陳情を行います。先日協議会を行い、今年度の事業計画と地区負担金の徴収その他、加入自治会の話を行いました。予算が出来次第事業を計画したいと思っております。昨年通りの活動を致し目的達成に頑張るつもりです。

勝田台地区

青少年健全育成連絡協議会の情報交換会から始まりました。

八千代市自治会連合会役員

職名	氏名	自治会名
会長	山崎 英美	八千代台自治会
副会長	青木 幹	萱田町区
	白井 四郎	桑橋区
	大滝辰次郎	黒沢台自治会
	手塚 宏昭	八千代台南町会
	武田 昭重	八勝園自治会
幹事	岩井 治郎	高津自治会
	横山 博美	大和田新田下区
	石川眞次郎	仲木戸自治会
	齋藤 栄治	島田台区
	加藤 史朗	米本団地自治会
	恵 新治郎	栄町会
	杉山 義雄	台町自治会
	安藤小二郎	八千代台東町会
	西川 由光	勝田新山自治会
会計	海老原利子	勝田台サンコーポ自治会
監事	山田 義雄	小坂橋東町会
	宮澤 宏之	八千代台南自治会

ご意見を
お寄せ
ください

自治連だよりや自治会活動について、市民の皆さんのご意見をお寄せください。ご意見は、官製ハガキに住所氏名を明記のうえ、事務局宛にお送りください。「電話、FAX、手紙等は事務整理上の都合によりお受けできませんので、ご了承ください。」

編集後記

第2号は、山田、大滝、白井、手塚、吉住、山崎の6人で編集委員会を組織しました。一面は、総会と市政懇談会を中心に組んだのですが、いずれも内容が多く、結局のところ、骨子のみの記事になってしまいました。二面は、新しい企画の「自治会めぐり」を入れました。第3号は来春発行予定です。